

総括研究報告書

1. 研究開発課題名： 「次世代がん医療創生研究HQ」
2. 研究開発代表者： 野田 哲生（公益財団法人がん研究会がん研究所）
3. 研究開発の成果

① 研究推進体制の運営と研究進捗管理

HQ 内に設置した運営委員会において、プログラム全体の管理・運営に努めた。具体的には、「革新的がん医療シーズ育成グループ」、「がん臨床シーズ育成グループ」及び「創薬基盤融合技術育成グループ（平成 26 年度開始）」それぞれのシーズ育成グループの研究の進捗管理、また、それぞれのシーズ育成グループの研究開発を支援する支援基盤の管理・運営を支援し、シーズ育成グループと支援基盤との連携を図ることによって、プログラムの推進に努めた。また、研究が進捗し後期育成フェーズにあるシーズについては、育成を加速するための支援委員会を設置し、効率的な進捗管理と支援の実施に努めた。加えて、プログラムの広報と研究管理のための専用のホームページ、ならびに、ゲノムデータベース・ポータル用の公開ホームページを管理・運営した。また、プログラム関係者以外へのアウトリーチ活動も視野に入れ、データベースの構築と公開方法の検討や、シンポジウム・広報用パンフレットの企画等を進めた。以上のように、プログラム全般の推進、研究進捗管理に係わる事項の検討や必要な対応を行った。

② 知財管理・共同研究契約に係る支援

HQ 内に創薬研究支援体制を整え、次世代がん研究シーズ戦略的育成プログラム内の共同研究契約の管理、外部の各種研究基盤との連携の支援と促進、知財の創出に関する助言と支援、企業への技術移転と連携に向けた折衝、がん実用化医療研究への移行などの支援を行った。特に、知財創出・企業への導出については、構築した外部委託機関との連携体制を活用し、企業向けの研究成果の発表会を独自に企画・実施した。こうした効率的な成果導出支援の実施により、研究成果と企業ニーズのマッチングが大きく進展した。

③ 倫理面の対応に係る支援

分担機関管理の倫理専用ホームページと HQ 管理の研究管理専用ホームページとを活用し、分担機関との連携を密にして HQ 内の倫理対応支援業務を実施した。

④ プログラムの総合的推進

プログラムを円滑に推進するため、各支援基盤担当者等との連携・調整を密に行うとともに、参画機関が参加する全体会議を年 2 回開催し、各年度の研究の進め方等につき、情報共有を図った。また、がん研究に係る現状の把握や課題の抽出を行うことを目的として、がん研究に関する学術研究論文や関連する特許情報について、がん研究全体の分析・評価を行うとともに、研究のステージや目的別に分析・評価を行った。